

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/1階)

事業所番号	2770105464		
法人名	アンドライフサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北花田		
所在地	大阪府堺市北区新堀町2丁119		
自己評価作成日	令和3年9月23日	評価結果市町村受理日	令和3年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナ禍で外出が難しい状況の中で、室内での調理、玄関先での気分転換等行い、楽しみや笑顔になれる時間、雰囲気大切にしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年11月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地下鉄北花田駅から徒歩5分の便利な立地で、幹線道路を一筋入った静かな環境に2003年3ユニットで開設された。管理者は開設時から勤務しており、計画作成担当者・介護職員を経て管理者となり、現在に至っている。コロナ禍の中、少人数での楽しみごとを用意し、積極的な生活リハビリを行い、その様子を毎月の事業所だよりやラインによる動画・メールで細目に連絡して家族に好評である。職員は殆どが常勤職員(内半数が10年以上勤務)で定着率が良く、職員間のコミュニケーションも良い。何らかの研修を毎月行っているが、特に看取り研修では職員自らが講師となり、完璧な準備と管理者のサポートによる独自の体制があり、講師をすることにより更なるスキルアップが図られる。理念通り「安心家族」「ゆっくり 穏やかに 笑顔ある暮らし」を実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を周知出来る様、フロアーの皆が目に見える位置に掲示している。	『安心家族』『ゆっくり 穏やかに 笑顔ある暮らし』—利用者さんに喜んでいただけるサービスの提供—を理念とし、玄関・事務所・各ユニット内とエレベーターホールに掲示している。重要事項説明書にも記載し、利用者・家族には入居時に説明している。各階のフロアミーティングで日常ケアを振り返り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を図り、良好な関係が築けるようにしている。	コロナ禍前は近隣保育園との定期的な交流、地域ボランティアの受け入れ、神社の祭りの参加、事業所主催の夕涼み会に近隣住民を招待するなど活発な地域交流があったが、すべて中止となっている。自治会の回覧板を利用者と職員で届けたり、近隣散歩時に挨拶を交わし、季節の花や果物をもらったの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも認知症の理解や支援に協力して頂ける様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナ対策にて開催は中止されているが、利用者、家族、地域住民からの意見を参考に、ホームでの取組について報告、サービス向上に取り組んでいる。	会議は偶数月の午後からと定例化し、地域包括支援センター職員・自治会役員・地域住民代表、事業所からは法人代表・管理者・計画作成担当が参加して開催し、入居者状況・行事報告・感染症対策など相互の意見交換を行っているが、昨年4月以降書面開催となっている。議事録は各エレベーターホールに開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームで起きた問題についての不明点等を確認、相談しながらケアサービスに努めている。	地域包括支援センター職員には、運営推進会議への参加により、事業所の状況を理解してもらっている。市の介護事業者課とは事業所の更新手続きなどで連絡を取り合い、区の地域福祉課とは主に介護保険手続きを行い、区の保健センターとは感染症についての相談するなど、協力関係も良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設立し、各フロアでの事案等を出し、随時確認し、話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化の指針を作成し、3カ月に1度委員会を開催し、会議終了後に研修を行い、議事録は全職員に回覧している。玄関・ベランダは施錠しているが、エレベーター・階段は自由に行き来できる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待委員会を設立、他研修にて虐待防止の大切さを学び、理解が深められるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング、申送り等で意見交換を行う事で学ぶ機会を持ち、活用できる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の不安、疑問に対して十分に話し合い、理解、納得出来る様説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケート、面会、LINE等を通して、意見、要望が表せる様、機会を設け、運営に反映させている。	各階ユニットの入り口に意見箱を設置しているが、利用者の衣類や差し入れの持参時に直接意見を聞くことが多い。またコロナ禍で面会が出来ないので家族アンケートを送付し返信用はがきで意見を聞いている。意見・要望受付書があり、内容・事実確認・発生の要因・改善策を記録して職員間で情報共有し、利用者・家族の満足が得られるよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申送りや月1回のミーティング等で職員からの意見や提案が反映できるように取り組んでいる。	月1回のフロアミーティングや年2回の個人面談で職員は意見を述べる機会はあるが、職員の休憩室に意見箱があり、そこでも意見を投函することができる。利用者の洗濯物に名前がなく、洗濯ばさみの色で区別しているが、日焼けによる濃淡があり、判別し辛くなっていたのを、職員の提案で改善した経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働ける様に、休憩時間、場所の確保や労働時間を守る工夫、働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらトレーニング出来る様に、職員一人ひとりの力量を把握し、研修を受ける機会を設け、スキル向上出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会、市内のグループホーム連絡会等を通じ、同業者と交流する機会への参加に取り組み、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思っている不安な事等の訴えに対し傾聴し、安心して生活出来るように、日々コミュニケーションを大切にし、信頼関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月のお便りや面会時に利用者の状況を伝えている。ご家族からの要望や不安に感じている事等に耳を傾け、安心して頂ける様に信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の訴えを見極めて、今何が必要か、家族に説明、相談し、利用者にとって必要な他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の力を発揮できる場所を把握し、一緒に楽しみながら、又、先輩として教えて頂きながら日々の暮らしを共にする同士の信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族間の絆を大切に、職員と共に利用者を支え合い、面会や行事等に参加して頂きながら関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	部屋に馴染みのある写真を飾り、昔の思い出等を出るだけ話題にし、家族と共に協力しながら馴染みの方や場所との関係が途切れてしまわないように努めている。	利用者・家族が持参したアルバムや利用者と一緒にホームで作成したアルバムを見て、懐かしい場所・人・事柄を聞き取るようにしている。マンツーマンでの散歩時や入浴時にも傾聴を心掛けている。事業所の他のフロアの利用者に、以前住んでいた同じ団地の出身者がいるとわかり話が弾んだ。電話の取次ぎや手紙・年賀状を書くことも積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のその日の状況や体調を見ながら、利用者と職員も交えて一緒に参加出来、楽しく過ごせるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所された後も、必要に応じて本人、家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや昔の話の中より、家族の要望や協力のもと、利用者に良い状態を検討している。	利用者の意向・希望の把握は、入居時の情報シートや家族との会話、日常生活の様子を見て行っている。利用者が年末や寒い季節になると落ち着かなくなり、お金の心配をするのは、以前税理士をしていたためだとわかり、職員間で情報共有し、行動を理解することができた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方を利用者家族の会話の中から把握できる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態を見極めながら、安心して過ごせるように個々の力を発揮出来る場所を提供出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が良く暮らす為に、利用者の少しの変化にも気づき、職員で共有し、情報を基にモニタリングを実施。ミーティングや申送り時話し合い、利用者の希望に沿った介護計画を作成している。	利用者・家族の要望を基にタブレットへ入力した情報(業務日誌・ケアプラン実施記録・経過記録・毎月のお便り)と医師・看護師・薬剤師・鍼灸師の意見を参考に介護計画を作成している。3カ月ごとにモニタリングを行い、サービス担当者会議は計画作成担当・管理者・職員・利用者・家族が参加して6カ月ごとに行っている。家族には電話か手紙で説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子の中で、変化や気づきを職員同士で情報共有し、個人記録へ記入する事で介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して、利用者、家族が安心できるよう柔軟な支援や必要なサービスの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ感染症対策の為中止しているが、地域で行っているお祭りや催しにも参加したり、ボランティア活動の方々との交流も実施し楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回のかかりつけ医による往診を実施し、定期的な健康管理を行っている。また緊急時にも対応していただけるように連携をとっている。	従来のかかりつけ医を受診している利用者が1名、訪問診療を受けている人が1名おり、他の人は協力医の訪問診療を月2回受けている。希望者は歯科・歯科衛生士の訪問診療を毎週・隔週または月1回受けている。眼科・皮膚科・精神科には家族同行で受診し、文書または口頭で利用者の状況を伝え、結果を報告してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護による健康管理を実施。心身状態の管理をお願いしている。また、24時間体制であるため、緊急時に対応、相談できるように整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早く退院出来る様、病院との情報交換や相談、連携に努めている。退院後も相談や情報交換を常に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階より家族と終末期のあり方について話し合い、事業所で出来る事を十分説明し、理解して頂いて、本人と家族の意向、思いに出来るだけ沿えるよう、主治医と連携を図っている。	重要事項説明書に「重度化対応及び看取りに関する指針」を明記し、入居時に説明して同意書を得ている。重度化した時は、「重度化(看取り)介護に関する同意書」を交わし、医師・家族の意向を聞いてカンファレンスし、介護計画を作成している。職員が「ホームでの看取り」のテーマで研修しており、今まで20数名を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の日々の変化等職員が把握し、情報を共有している。また、研修を行い、急変や事故発生時に備え、実践力を身に付け、確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な自主訓練実施、年2回の消防訓練実施、訓練後の反省会、気づき、職員への電話連絡、次回に向けての取組み等話し合い確認している。	「避難訓練マニュアル」を各フロアに置いて、月1回確認と指導を行っている。設備管理会社による設備点検後に指導を受けて、夜間を想定して年2回消防避難訓練を実施している。地震から津波の訓練も年1回行っている。近隣の2軒に自動火災通報が発信されて、協力を得られる。水・食料など3日分を備蓄し、業務継続計画も策定する予定である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格、個性を尊重。その人が理解できる様な言葉の掛け方、気付けられない言葉使い、プライバシーを尊重し、一人ひとりに合った対応を行っている。	接遇のマニュアルを作成して研修し、言葉遣い・態度などの接遇アンケートを職員に行って、利用者を尊重した対応を心がけている。排泄時は居室ドアと居室内トイレのドアを閉める。汚れたおむつはエコバックに入れて人の目に触れない配慮をしている。モニターで全体の様子を把握し、不適切な対応があれば注意して是正している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や何を訴えたいのか、話をしっかり傾聴し、毎日が少しでも楽しく生活出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々したい事等も変わるので、体調も考え、同じ事ばかりして頂くのではなく、その人の興味等希望に沿って支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じ、その人らしい服装、上下のバランスも考え、支援している。本人の好まない服は選ばない。移動美容室によるカット、カラーも実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、出来る事をして頂いている。食材切りや洗い物、食器拭き等、職員と一緒に準備や片付け等している。メニュー等もリクエストして頂き、一緒に調理している。	昼食・夕食はクックチルを湯煎して盛り付け、ご飯と味噌汁を作って提供している。利用者の要望を聞いて、週1～2回は食事レクリエーションを行い、餃子パーティー・デパ地下バイキング・BBQ・おでんなどを一緒に作っている。近所からもらった柿で干し柿やジャムを作ったり、スイーツバイキング・巨大プリンなども楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりのペースの合わせ、1日の水分量を取って頂く様にしている。状態に応じてとろみをつけたり、形態を変えて水分補給を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしっかりと行い、出来る方には磨いてもらい、出来ない方は出来るだけ口の中の汚れが無くなるよう、スポンジなどで口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ないところを介助し、いつにトイレへ行ったか時間を確認している。時間を見ながらトイレへの促し、誘導を行っている。	排泄したい時にトイレで排泄することを自立と捉え、排泄パターンやサイン(立ち上がる、ウロウロする、モゾモゾする)を察知して、居室内のトイレに誘導している。夜間は睡眠を優先し、2時間毎に声かけしてパッド交換やトイレ誘導をしている。適切な排泄支援で、入院後におむつから布パンツ使用に改善した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要であれば下剤なども使用するが、水分補給など腸の動きを良くするものを提供したり等気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しく入浴出来る様お話をしたり、穏やかに入浴出来る様にほんにんの希望に出来るだけ合わせて支援しています。	隔日午後の入浴を基本とし、毎日入浴する利用者もいる。入浴で体力を消耗する人でも月1~2回は入浴し、拒否の強い人は粘り強く声かけして月1回入浴したり銭湯を利用し、下着交換や清拭を行って清潔を保っている。2年前にリフトを導入して、重度の人にも湯船に浸かってもらっている。同性介助の希望に応じ、柚子湯・菖蒲湯・入浴剤も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を妨げないように配慮している。安眠して頂ける様、日中の活動に参加して頂いたり、安眠出来る様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	複数回確認出来るタイミングを作り、誤薬の事故に繋がらないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が出来る事を把握し、職員も一緒に参加する事で出来る事をしていただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状コロナ対策の為、外出はしにくい状態にはあるが、状態によって散歩に行きましょうと声かけをし、外出している。利用者の希望に応えられる様、計画を考えている。	コロナ禍で外出は控え、毎日のラジオ体操などで身体機能を維持したり、裏庭に野菜・果物・花を植えて水やりし、洗濯物干しやベランダ・玄関先で外気浴していた。緊急事態宣言解除後の10月20日から再開し、毎日から週1~2回は、利用者・職員が1対1で近くの神社などまで散歩している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望する利用者には、家族の協力も得て所持。コロナ対策により外出が出来ない間は、ホーム内でお店屋さんを開店。支払い含め個々による買物を楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ対策の為、面会はりモート面会を主としている。希望される方には電話対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ、飾りつけを皆さんと作成し、壁に飾り付けしている。	居間兼食堂は自宅のイメージになるよう、季節の飾り(今は紅葉・クリスマス)は過度に行わず、その他写真などはエレベーターホールなどに掲示して見てもらっている。空気洗浄機や窓の開放で換気し、ざわつかないようにテレビの音は絞り、転倒やつまづかないように下に物を置かず、安全で快適な空間となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	料理をしたり、映画、テレビを鑑賞、その時々会話ができるようなイベントを考えたり工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は個人の使い慣れた物や、好みの物などを置いて、ゆっくり過ごせる空間作りを行っている。	居室にはトイレと流し台も設置され、ベッドは全て上下昇降式の物に今月入れ替えたばかりである。1・3階は洋室、2階は和室で、利用者の状況によってはカーペットを敷いている。利用者は、タンス・ソファ・テーブル・冷蔵庫・仏壇・ぬいぐるみ・赤ちゃん人形などを自由に持ち込んで、居心地良く過ごせる空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は利用者が出来る事を見つけて、安心安全にわかる事を活かし、生活が送れる様支援している。		